

■図5 市水道事業の基本理念と目標数値（市水道事業ビジョンより）

### 市水道事業の目指す方向

**■基本理念** 安全で安心な水道水を安定供給し、災害にも強い施設整備を進めます。

**■基本方針**

業務指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和9年度)	施策目標
<b>安全 - 安心安全な水の供給</b>			
有収率 (%)	77.7	82.4	老朽施設の改良・更新
<b>強靱 - 災害に強くたくましい水道</b>			
管路の耐震管率 (%)	14.9	19.1	水道施設の耐震化
<b>持続 - 将来に向けた持続的運営</b>			
経常収支比率 (%)	107.7	104.6	健全経営の推進

有収率 …… 家庭等に配られ水道料金の対象となった水の割合  
 管路の耐震管率 …… 水道管のうち、耐震性のある管の割合  
 経常収支比率 …… 通常の事業活動での収支割合 100超で黒字



市上下水道部の  
ホームページは  
こちらから▼



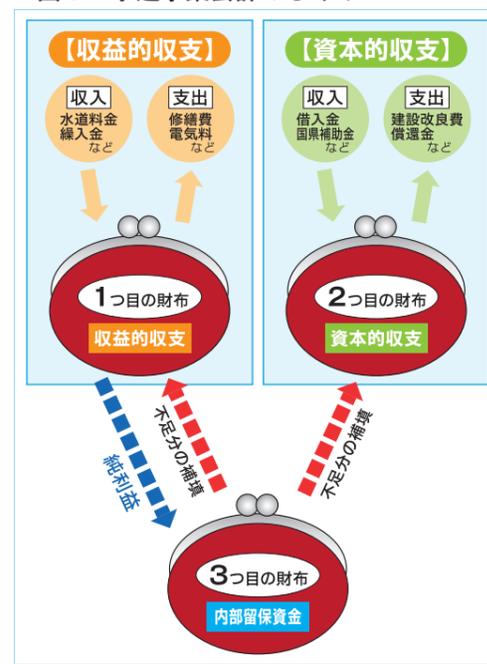
満足される品質とサービスを目指して

市は、「安全安心な水の安定供給」と「災害に強い施設整備」を基本理念に掲げて、「安全…安心安全な水の供給」「強靱…災害に強くたくましい水道」「持続…将来に向けた持続的運営」の3つの基本方針の下に事業を進めています。

す（図5）。今後もさらなる経営の効率化を行うとともに、ダム受水による施設の統廃合を進め、水道事業の経営基盤を強化します。また、サービスの向上のため、ホームページなどで水道に関する情報を分かりやすく発信するほか、水道施設見学会を行うなど、参加型の広報活動にも努めます。さらに、

3年度にはお客様満足度調査の実施も予定しており、市民の皆さんの声を聴きながら、満足いただける事業運営を目指します。将来にわたり地域を潤す市水道事業の運営にご理解をお願いいたします。

■図3 水道事業会計のしくみ



水道事業会計には三つの財布があります（図3）。一つ目の財布（収益的収支）は、1年間に水を作るのにかかるから、その水を買っていくら収入があったかによって、いくらもうかったか（純利益）、いくら損したか（純損失）を知るための財布です。二つ目の財布（資本的収支）

は、老朽化した水道施設や管路の更新、新たに施設を建設するための財布です。この二つの財布の黒字や赤字を調整するために、三つ目の財布（内部留保資金）が必要になります。三つ目の財布には、一つ目の財布のもうけなどが入っており、一つ目と二つ目の財布に不足が生じると、ここから補填します。一つ目の財布からもうけが出ることで、三つ目の財布にある程度蓄えがあることが、安定した水道事業経営の条件となります。

水道事業会計のしくみ

水道料金算定の考え方

水道料金は「料金の安定性」「期間的負担の公平性」などの面から、おおむね3年から5年を基準に定めることが妥当とされており、本市では見直しを3年に一度行っています。合併後、平成20年度と27年度に料金改定を行いました。が、前回の30年度の見直しでは料金改定を行わず現在に至っています。

今回の料金算定では、算定期間を3年度から5年度の3年間とし、「収益的収支の収支均衡が図られること」「内部留保資金として災害時の施設復旧などに備え、14億円程度を確保できること」の2つの指標を掲げ、検討を行いました。その結果、現行料金のままでも「収益的収支は黒字を確保できる」「内部留保資金は14億円以上を確保できる」見込みとなり、5年度までは料金改定を見送ることとなりました（図4）。

■図4 料金算定の考え方と3年間の試算結果

料金算定の考え方	<p>1 収益的収支の収支均衡が図られること。 → 図3のうち「1つ目の財布」が黒字になること</p> <p>2 内部留保資金として災害などに備え14億円程度を確保できること。 → 図3のうち「3つ目の財布」の残高が14億円あること</p>																		
3年間の試算結果	<table border="1"> <tr> <td>1 収益的収支は黒字（純利益）を確保できる。</td> <td>2 内部留保資金は14億円以上を確保できる。</td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr> <tr><td>5,848万円</td><td>2,277万円</td><td>2,822万円</td></tr> </table> </td> <td> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr> <tr><td>19億5千万円</td><td>19億3千万円</td><td>17億4千万円</td></tr> </table> </td> </tr> </table>	1 収益的収支は黒字（純利益）を確保できる。	2 内部留保資金は14億円以上を確保できる。	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr> <tr><td>5,848万円</td><td>2,277万円</td><td>2,822万円</td></tr> </table>	年度	3年度	4年度	5年度	5,848万円	2,277万円	2,822万円	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr> <tr><td>19億5千万円</td><td>19億3千万円</td><td>17億4千万円</td></tr> </table>	年度	3年度	4年度	5年度	19億5千万円	19億3千万円	17億4千万円
1 収益的収支は黒字（純利益）を確保できる。	2 内部留保資金は14億円以上を確保できる。																		
<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr> <tr><td>5,848万円</td><td>2,277万円</td><td>2,822万円</td></tr> </table>	年度	3年度	4年度	5年度	5,848万円	2,277万円	2,822万円	<table border="1"> <tr><th>年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th></tr> <tr><td>19億5千万円</td><td>19億3千万円</td><td>17億4千万円</td></tr> </table>	年度	3年度	4年度	5年度	19億5千万円	19億3千万円	17億4千万円				
年度	3年度	4年度	5年度																
5,848万円	2,277万円	2,822万円																	
年度	3年度	4年度	5年度																
19億5千万円	19億3千万円	17億4千万円																	

## 今後の下水道使用料の見直しについて

市には「公共下水道」「農業集落排水」「市営浄化槽」「コミュニティ・プラント」の4つの汚水処理施設があり、これらの施設を点検・維持管理し、十分な機能を発揮させるために、それぞれ使用料をいただいています。

しかし、維持管理などの経費が増加する一方で、人口減少などにより使用料収入が減少し、使用料収入だけで経費をまかなえていないのが現状です。市では、施設の維持管理や老朽施設の更新とともに、施設の統廃合などにより経営改善に取り組んでいるところですが、施設整備の借入金返済などもあり、今後も厳しい経営状況が続くことが見込まれます。

このため、水道料金の見直しを行うのと同様に、4つの汚水処理施設についても値上げを視野にした定期的な検討が必要となっています。今後の下水道料金の見直しにご理解をお願いします。

市内下水道マンホールデザイン



水道料金の今後について

3年度から5年度は料金据え置きとしましたが、今後はこれまで以上に「人口減少などに伴う料金収入の減少」や「老朽管更新事業の継続」などが水道事業経営に影響すると考えられます。また、簡易水道を統合した影響などもあり、一般会計繰入金（市から水道事業への補助金）によって収益的収支を黒字にしているのが現状で、結果的に一般会計を圧迫する状況となっています。

2年10月9日に市上下水道事業運営審議会より、今回の料金据え置きについて「妥当」との答申を受けましたが、付帯意見として「老朽施設の更新や耐震化の推進」「一般会計繰入金の抑制」などを求められました。これまでも委託の見直しなどで経費削減に努めてきましたが、これらのことから、6年度以降は料金値上げの検討が必要となります。

■グラフ3 純利益（純損失）の見通し

